

中央線地下化プロジェクト計画の提案

日本大学理工学部 正会員 三浦 裕二
 日本大学理工学部 正会員 伊沢 崎
 日本大学理工学部 正会員 福田 敦
 日本大学大学院 学生員 佐藤 賢司

1. はじめに

首都圏再開発の抜本的対応の一つとして山の手線、中央線の軌道空間利用、特に地下利用のアイディアが多方面から提案されている。

ここではこれらのアイディアの実現を中央線の地下化を例とし提案する。

2. 地下空間利用の意義

今後の東京の整備に求められるものは、生き甲斐のある生活を送る場としての整備である。

したがって、本提案においては、地下空間を利用することによって地上空間を、水と緑に親しめる空間として利用することを計画する。これは、既存の地下空間利用の提案が、地下および地上空間の全てを都市機能の受け皿としているのと大きく異なるところであり、性の高い一大公園としての活用を促そうとするもので本提案の特徴である。

3. 中央線地下化計画案の概要

本提案は、対象敷地を図-1に示すように、東京～東中野間12.8km、錦糸町～お茶の水間4.3kmの合計11.7km、軌道敷地幅30～50mの全体で約69haの面積を持つものである。この提案において重要な点は、信濃町～四谷～お茶の水間に、緑と外堀の水を活かした公園を創り出すことにある（水域面積約11haを含む約30ha：東京23区内の公園規模で第9位）。

また、首都東京の都市インフラの再構築として、交通施設および、都市施設の整備を提案する。これらの提案においては、公共空間とのバランスが保たれるよう考慮している。

具体的には、中央線・総武線の地下化、東京～新宿を結ぶ地下横断道路の設置等の交通施設計画とお茶の水・飯田橋・市ヶ谷駅における拠点開発の都市施設計画からなるものである。また、図-2のお茶の水における計画断面に示す通り、遊歩道、水上バス、駐車場、エネルギー供給施設、備蓄倉庫等、快適で安全な都市生活を支えるうえで重要な施設も併せて整備することを計画する。

4. 谷と水と緑の提案

公園計画の地域は、江戸城築城以前は谷であり、その後、江戸城の外堀へと変化した地域である。現在でも千駄ヶ谷、市ヶ谷、四谷、水道橋、お茶の水等の地名に、この地域の自然との深い関わりを見る事ができる。さらに、神田川、日本橋川を中心とする地域では、多くの古い建造物や橋が残っており、歴史を感じることができる。

本提案では、この地域の「谷と水と緑」あふれる景観とその歴史性を踏まえて公園として復活させることにある。また、対象地域だけに留まらず、周辺に点在するいくつかの公園との結合を図ることによる、東京都心部の自然環境の復活を目指すと同様に、より利用性の高い一大公園としての活用を促そうとするものである。

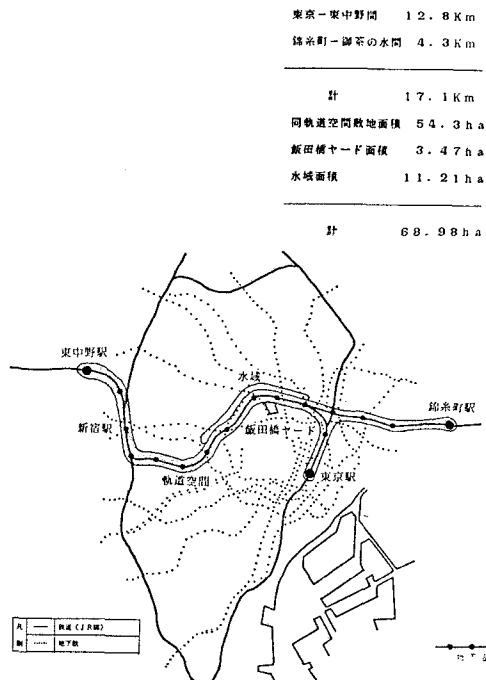


図-1 対象敷地図

『緑とのふれ合い』

本来、人間の生活にとって緑は重要であり、このことは東京においても例外ではなく、手に届く緑とのふれ合いの場を創出することは、意義深いことである。これにより、東京から新宿までの一大歩行空間を形成する。また、新宿御苑、神宮外苑等の軌道敷地によって分断されている周辺の公園を連結することによって、都市環境改善のより大きな効果が期待される。

『水とのふれ合い』

緑とともに水も人間の生活に欠かせない重要な要素である。本提案においても先の緑に加えて、対象地域にあるお堀り、日本橋川、神田川の水を活かした水上公園の創造を提案する。ここではより水との親しみを持たすものとして、神田川～日本橋川を巡る水上バス等も計画する。

これらの計画の推進には、中央線・総武線の地下化とともに日本橋川及びお堀の復活のために、首都高速道路の撤去（路線変更）、水質の改善等の整備もあわせて行う必要がある。

首都高速道路の撤去に関しては、地下空間に路線を計画することが可能であり、本計画においてもこの代替路線の検討を行っている。

水質の改善に関しては、雨水の利用により対応が可能であると考えられる。

5. 本提案の採算性について

最後に、事業の採算性について検討した。この検討においては、公園等に利用する地上部の地代は、歳入に含めないものとした。試算の結果、総工費約2兆7千億円に対して、歳入は20年で約5兆4千億円が見込まれ、十分に採算が取れることが確かめられた。また事業主体別に採算性を試算した結果においても採算が十分に取れることが確かめられた。

また、この他にも、54.3haもの地上空間が創造でき時間短縮効果、資産価値増大効果等の大きな社会的効果が期待される。

6. おわりに

本提案は、地下空間利用に関する一つ試案であり、地下空間利用の目的を、都市環境改善のための水と緑の創造においている点と工学的検討を行っている点に大きな意義がある。なお本提案は、有志の集まりである日大グランドデザイン研究会で検討したものを取りまとめたものである。

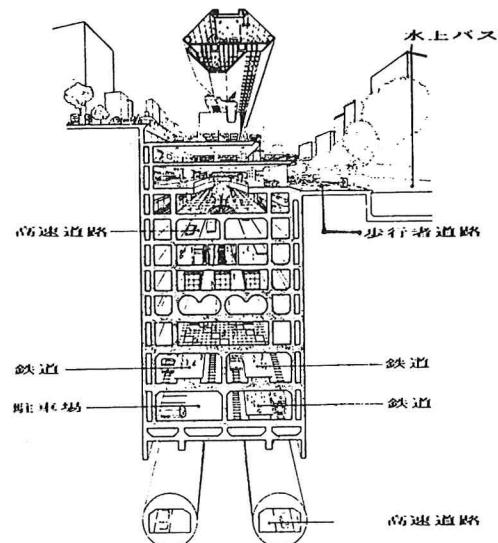


図-2 お茶の水に見る計画断面図

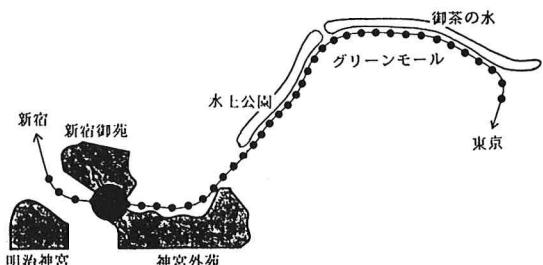


図-3 谷と水と緑の提案概略図



図-4 市ヶ谷駅に見る地上部利用計画 (模型)